

ぐんま教育のつどい

『紙芝居(前橋空襲)』私の8

月5日』を使った授業実践

中学校教諭 信澤 直樹

私は一学期の終了間際から中学校に勤め始め、二期期から社会科の授業をすることになりました。小学校の教員を三十九年務めました。中学校での授業は初めてで、私にとっては挑戦の年になります。

夏休み中、授業の準備をしました。一回目の生徒たちとの出合いの授業は何をしようか、ずっと考えていました。そんな中、全群退教通信の「紙芝居をつくっています」の記事を読んで「その紙芝居を見てみたい」という思いが広がりました。紙芝居がみられる「地域から戦争を考える」の集会の日程が載っていたので早速行くことにしました。そこでは、鈴木さんの朗読に

よる紙芝居を見ることができました。そして、「これだ!」と思えました。一回目の授業はこの紙芝居を中心に授業を組み立てようと考えました。「戦時下の子ども」の着物が語るもの、「少年がみた戦争と戦後」も、とても興味深いもので、中学生と社会科の学習で戦争のことを考えたい、という思いが強まりました。

一回目の授業は「私たちはなぜ歴史を学ぶのでしょうか」というテーマで、それを考える手立ての一つとして紙芝居を使うことにしました。中学校の歴史の教科書の最初のページにも、歴史を学ぶ意味が書いてあります。少し長いのですが載せます。

「私たちはなぜ歴史を学ぶのでしょうか。それは、私たちの未来を考えるために歴史が必要とされるからです。」

私たちが生きる現代社会は、AI(人工知能)など科学技術のいっそうの発展により、生活や社会の仕組みが急速に変化しています。また、グローバル化や少子高齢化が進む中で、環境・資

源・防災・貧困・平和などに関する多くの課題に直面しています。

こうした課題を解決するため、歴史が役に立ちます。歴史は、人々が過去にどのような課題を克服しようとしたのかを教えてくれるからです。よりよい社会を作り出そうとする人々の姿に学ぶことで、私たちはより平和で豊かな社会を追い求めていくことができます。次の時代を生きる人々にバトンを受け継ぐためにも、歴史を通じて人々が生み出してきた知恵と努力に学ぶことが求められています。」

きれいごとにも書いてあります。が、未来を生きる生徒たちがよりよい社会を作っていく主権者になる学びができたらと、私も子どもたちと一緒に歴史を学ぶ意味を考えようと思いました。

いよいよ授業の日が来ました。初めての中学校での授業で、生徒達の名前も全くわからない状態だったので緊張して臨みま

① 最初に自己紹介

② 一人一人呼名

③ 一学期に学習する歴史の概観

④ 紙芝居の朗読

ひとつ心配だったのは、紙芝居は中学生には子どもっぽくて受け入れられないのではないかとのことです。しかし、大きなケースに入った紙芝居を見て、「なつかしい」「久しぶりの紙芝居だ」などと好意を感じる声がかかりました。生徒達の表情も私との緊張が少しゆるんだようでした。

実際に読んでみると子ども達はお話と、絵、また、次々に移り変わっていく展開に引きつけられ、集中していくのが読んでいる私にも伝わってきました。約20分かけて読み終わると、どのクラスからも、拍手がわいてきました。

⑤ 歴史を学ぶ意味を考えよう

紙芝居を読んだ後、歴史を学ぶ意味を生徒達と考え合いました。ある生徒から、「歴史の勉強は暗記の勉強で、

覚えることが多くてあまり好きではない。」

「数学や英語と違って大人になったら使わない勉強だと思う。」

と言う意見が出ました。

その後、

「漢字が難しい。」

「範囲が広すぎる」

「教科書を読んでも意味がわからなかった。」

「六年生の社会の勉強はほとんど覚えていない。」

など、笑いながらネガティブな意見を言う生徒が数人いました。

それでも、話が戦争のことになると、表情が変わり、

「前橋空襲のことを知っている人はいますか？」

と聞くと、各クラスとも、四、五人が手を挙げました。思ったよりも少なかったです。

「広島・長崎の原爆投下を知っている人？」

と聞いたら、ことらはほとんどの生徒が手を挙げました。

紙芝居の感想を聞きましたが、あまり意見は出ませんでした。紙芝居をしていたときの感覚か

らすると、きつといういろいろなことを考えていたのではないかと感じましたが、ここでは、一人二人の意見にとどめておきました。

「戦争は怖いと感じました。」

「少年が一人になってしまい、

かわいそうだった。」

などの素っ気ないものでした。

その後、教科書を使って今ある課題を具体的に提示し、歴史を始め、社会科の学習がそれらの課題を解決することをめあてにした学習であることを説明しました。

⑥ まとめ

「このような課題を解決するために、過去の出来事の事実を知り、未来を考えていくことが歴史を学ぶ意味です。過去を知り、よりよい社会を作っていくために、一緒に歴史の学習をしていきましょう。」

⑦ 感想

最後の五分で、今日の感想を書いてもらいました。チャイムが鳴っても書いている生徒が何人もいて、

「後で出してもいいですか？」
と言う生徒も数名いました。

感想1

「自分は、紙芝居を見て、歴史を学ぶ意味を考見たら、先生の考えと似ているが、『みんなが苦しめないで生きていける社会を作るため』と思った。小学校の歴史、今日の紙芝居を見て、『戦争は言葉にできないほど苦しい』ものだとあらためて感じた。そして、その戦争をしないためにはどうすべきか、どうすることはだめなのかを学び、考えるためにも歴史を学ぶことは大きな意味があるんだと思った。(中一男子)」

戦争をテーマにした紙芝居だったので、戦争のことについての感想が多かったですが、それにとどまらず、よりよい社会を作っていく主体者・主権者の意識を持った感想もいくつか出てきて驚きました。

子どもたちとの出会いの授業でこの紙芝居を活用できたことは大変ラッキーでした。時期的

にもびったりだったし、教材としても、生徒に課題を与えられるものでした。社会の授業の中で、友達と一緒にこの紙芝居を見ることに、とても意義を感じました。

小学校高学年の社会の授業、あるいは中学年の地域の学習でも十分使えると思います。ぜひ、たくさん各学校で、授業の中で活用し、教材の一つになるといいと思います。

2学期終わりの感想

「自分は今まで、それほど社会が好きではなく『これを学習する必要はあるのかな?』と思うことがあったが、9月の最初の授業で、『社会はみんなが平和に暮らせる世界を作るために学習する』ということを知り、先生から学び、これからはこのことを考えながら社会の勉強に取り組めたため、前よりも社会が楽しくなったように感じた。」